



シンポジウム

「日本の大学教育におけるライティングセンターの可能性」

主催：津田塾大学・関西大学 2013. 8. 3.(土)

日本のライティング教育の現状

井下 千以子

桜美林大学

自己紹介

教員は、学系に所属

- 心理・教育学系

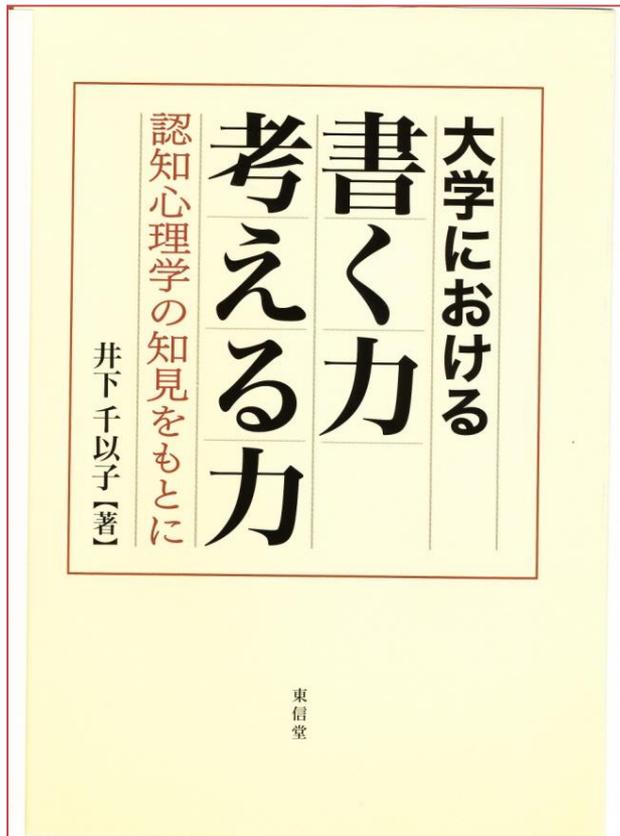


- 大学院 大学アドミニストレーション研究科
- リベラルアーツ学群 生涯発達心理学・教育心理学
- 基盤教育院 アカデミック・キャリアガイダンス

『大学における書く力考える力』

認知心理学の知見をもとに』

東信堂, 2008.



- 大学での学びとは何か
- 書くことを通し、考える力を育成
- 初年次教育
- 学士課程教育のカリキュラム
- 看護記録の研究

- 大学教育学会第1回奨励賞受賞

思考を鍛える

レポート・論文作成法

Developing Critical Thinking to Write Papers

井下千以子



初歩から応用まで
本物の
「書く力」「考える力」
を身につける!

慶應義塾大学出版会

『思考を鍛える

レポート・論文作成法』

Developing Critical Thinking to
Write Papers

慶應義塾大学出版会, 2013.

根拠に基づき、意見を述べる

事実(情報)と意見(判断)の区別

しっかり調べて、考え抜いて書く

◆初歩から応用まで俯瞰できる

「大学での学びとは何か」という視点から、
「書く力考える力」に焦点を当て、問題を俯瞰する

大学におけるライティング教育では、

- 何を目指して、何を指導するのか。



- 「目標」 「目的」 の明確化

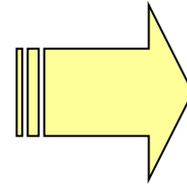
- しかし、目的や目標は一樣ではない。

たとえば、何をどこまで添削するのか。

- 語：漢字、表現、語彙
- 文章：文のねじれ、主述不一致
- 構成：内容構成、構造、組み立て
- 規則：引用の仕方、コピー
- 課題：授業での課題との適合性
- 事実：事実の記述、意見の記述、判断の記述
- 論文：テーマ設定、仮説の提示、研究内容

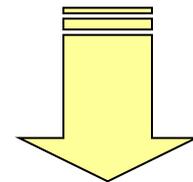
学生の「書く力考える力」を育むには

- 発達観の転換
- 学習観の転換
- 授業観の転換



FD

教員の意識改革
学びあい



豊かで深く、
意味のある学び

概要

【何が問題か】
【何が大切か】
【どうすればよいか】

1. 日本の大学におけるライティング教育の歴史
2. 大学のライティング教育の3要素と5類型
3. 日本のライティング教育の現状と課題
発達観、学習観、授業観の転換
4. 大学での深い学びにつながる書く力とは
5. 学びの先を見通す力: Curriculum Development
ライティングセンターの可能性

1. 大学のライティング教育の歴史

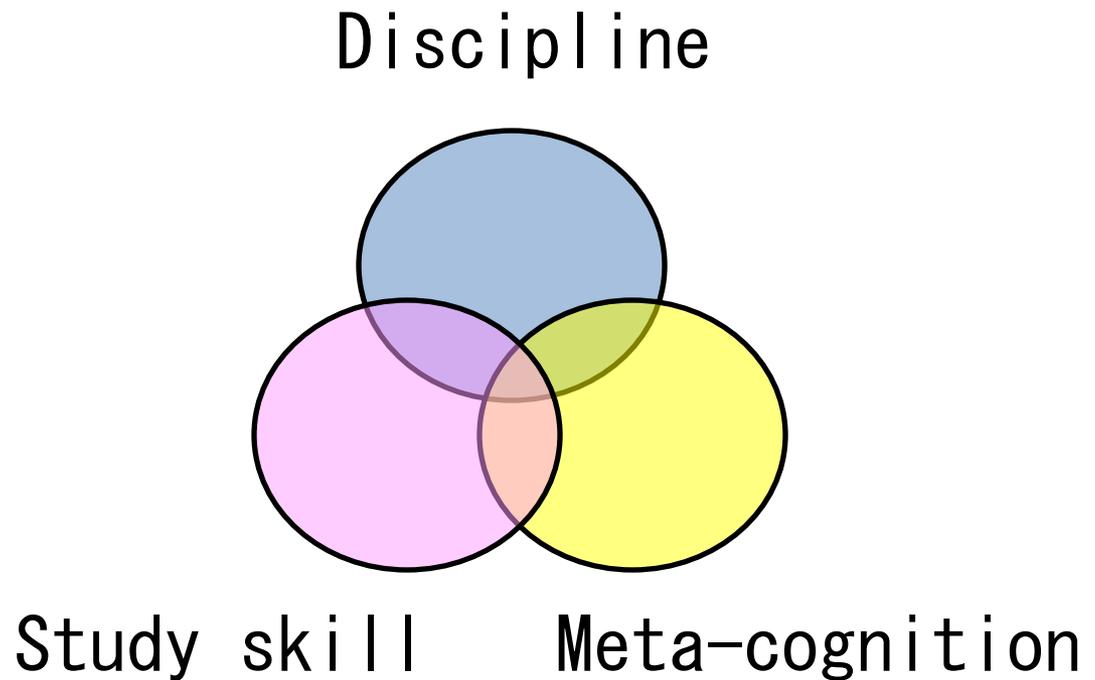
年代	発達区分	発達の様相
1980	黎明期	読み書き教育への問題意識の芽生え
1990	草創期	日本語表現科目の創設
2000	普及期	初年次教育における位置の確立
2010	転換期	転換点に立ち、模索する多様な取組
	発展期	ディシプリンと教養が発展の鍵

「大学のライティング教育における発達の5段階」
(井下, 2013a)

2. 大学でのライティング教育の3要素

(井下, 2008)

- 学習技術
 - レポートの書き方
 - ノートの取り方
- ディシプリン
 - 専門分野
 - 思考様式
- 自己の相対化
 - 自分と向き合う
 - 自分を見つめる



大学でのライティング教育の5類型

(井下, 2013a)

- 学習技術型** : 初歩的なアカデミック・ライティング、汎用性の高いレポートの書き方の訓練
- 専門基礎型** : 専攻分野に特化した論文・レポートの初歩的訓練、臨床実習記録、実験演習レポート
- 専門教養型** : 専攻分野に限らず、多様なディシプリンでの幅広い学びを重視したレポート(学びレポート)
- 文章表現型** : ディシプリンの要素を含まない文章表現指導を目的とする。就活の文書指導も含む。
- 研究論文型** : 研究レポート、卒業論文、修士論文

3. ライティング教育の現状と課題

これまでの教育内容

1. 初年次に、短期集中
2. 知識・技術学習偏重
3. コースデザイン

転換期の課題

- 発達観の転換
- 学習観の転換
- 授業観の転換

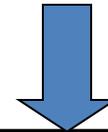
発達観の転換

- 短いスパンでの発達

- 初年次教育の枠内
- 基礎教育の充実
- 効率、高い生産性

- 長いスパンでの発達

- 4年間の変化
- ゆらぎと再構成
- 一生涯を通して



広い視野に立ち、見通しを持って考えさせることによって、

「自分は何を学びたいのか、何をしていきたいのか」

大学での学びと経験を自分に意味づけることができる。

学習観の転換

- スキル学習

- 基礎教育での訓練
- 基本様式の習得
- 効率的、生産的

- 深い学習

- 4年間、6年間を通して
- 学びを深めるレポート
- 創造的、発見的

- 知識の積み上げ

→ 知識の再構造化

知識叙述型ライティング

(knowledge-telling strategy)

知識変換型ライティング

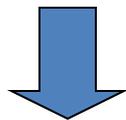
(knowledge-transforming strategy)

教え込み

→ 支援

大学での学びと「コピペ」問題

- 学生のレポート課題におけるコピペの問題点
 - 情報をそのまま、自分で考えずに、盗用すること。
- 大学での学びの重要な部分が欠如。
 - 学びを「自分のことば」で表現していない！
 - 知識の再構造化がおこなわれていない。



「書くという学習経験を通して、
考えるプロセスを支援すること」が重要。
(知識の再構造化)

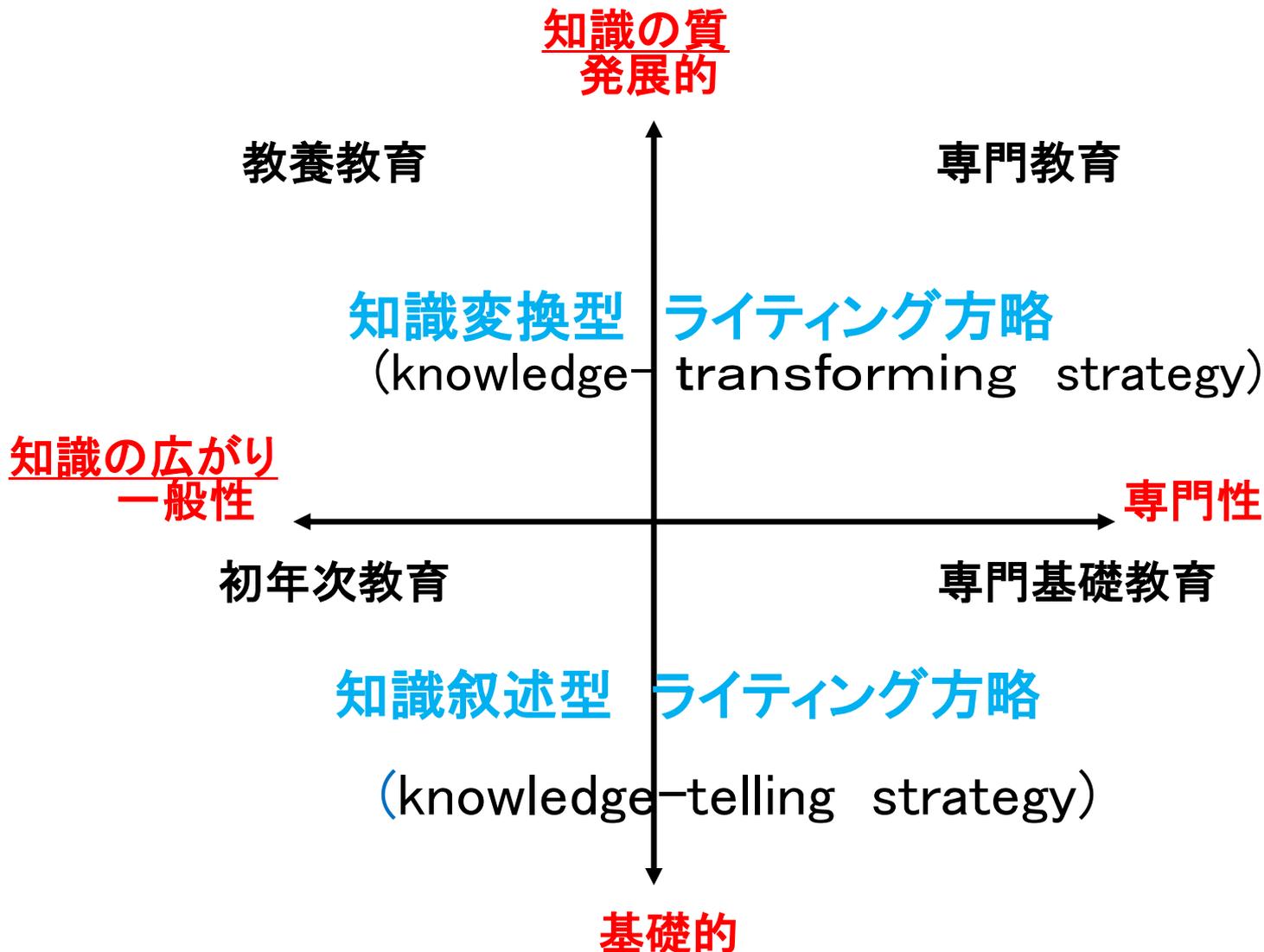
授業観の転換

コースデザイン

→ カリキュラムデザイン

- 知識の積み上げ
知識叙述型ライティング
(knowledge-telling)
- 初年次、基礎教育
- 学習技術
- 知識の再構造化
知識変換型ライティング
(knowledge-transforming)
- 学士課程の4年間
- ディシプリンと教養

学士課程カリキュラムマップ (井下, 2008, 2013b)



4. 大学での「深い学び」につながる書く力

【学問の視点】

- ディシプリン → 学問の思考様式や知識

アカデミック・ライティング

クリティカル・シンキング

【発達の視点】

- アイデンティティの発達 → 自分を深く見つめる

自分は何に関心があるのか

自分は何をしていきたいのか

「大学における書く力考える力」の定義

「ディシプリンでの学習経験を
自分にとって意味のある知識として
再構造化する力」

(井下, 2008, 2013b)

学びレポート

卒業論文、研究計画書

【専門教養型】
教養教育

【研究論文型】
専門教育

発展的・探究的

知識変換型

ライティング

一般性

専門性

知識叙述型

ライティング

初年次教育

専門基礎教育

【学習技術型】

【専門基礎型】

ノートの取り方
レポートの書き方

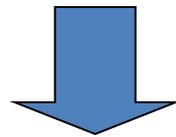
基礎的・定型的

実験演習レポート
臨床実習レポート

心理学教育におけるライティング指導 (井下, 2013a)

授業デザインとカリキュラムデザイン

- ディシプリンでの学習とアイデンティティの模索が重なるような構造を持つ「授業デザイン」
- カリキュラムデザインを視野に入れた
授業のデザインが重要！



- 「知識変換型ライティング」を取り入れる。
- 「知識の再構造化」が促進される。

5. 学びの先を見通す力 Curriculum Development

- カリキュラム全体に渡って
 - 基礎教育だけでなく、専門教育でも、
 - アイデンティティの発達、人間形成も視野に入れた
 - 統合的なカリキュラムの開発が必要。
-
- 教員間の理解と協力「FD」
 - **これからのライティングセンターの可能性**
 - Instructional Development
 - Curriculum Development

学びの輪

つながり→まとまり→深まる

知識の質
発展的・探究的

教養教育

専門教育

一般性

知識の広がり
専門性

初年次教育

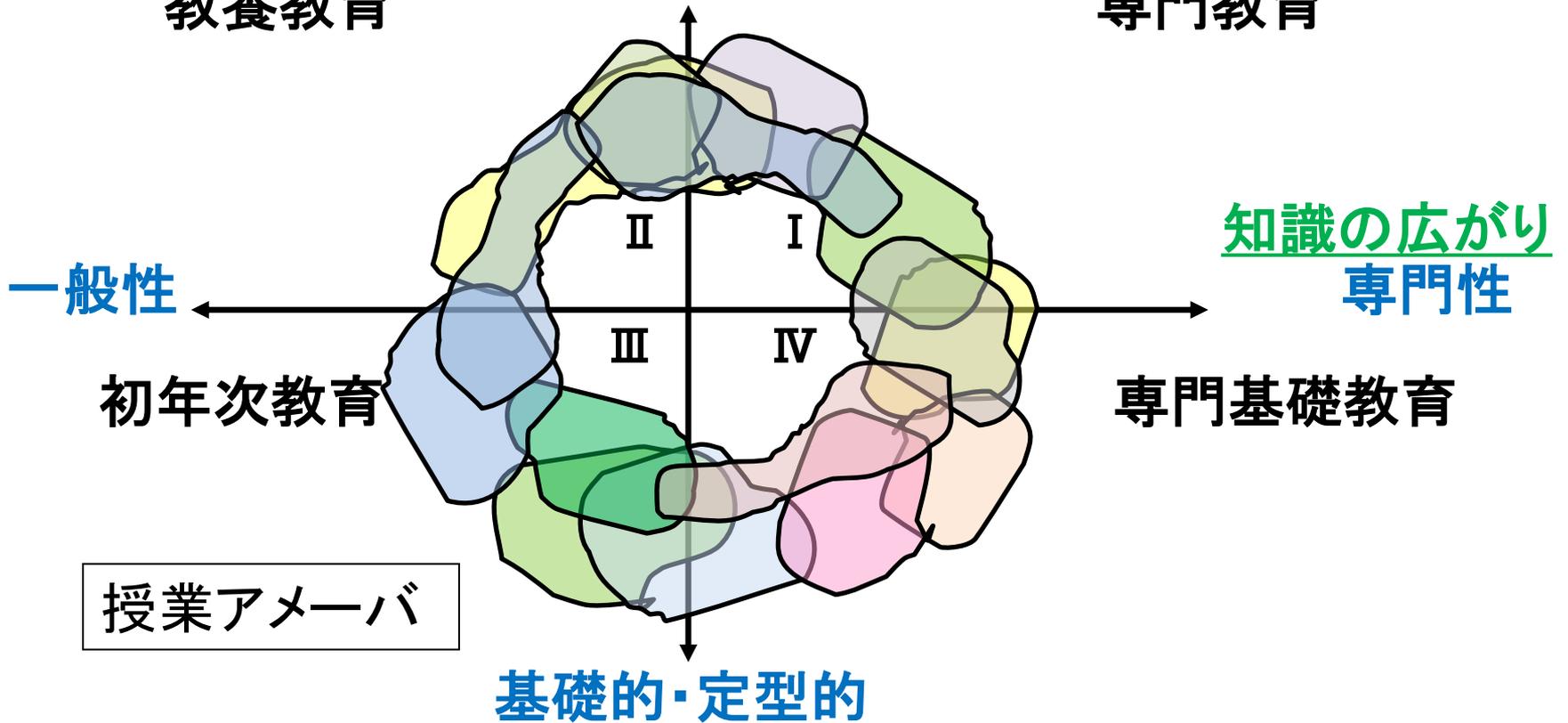
専門基礎教育

授業アメーバ

基礎的・定型的

学士課程カリキュラムにおける授業の連関「学びの輪」

(井下, 2008, 2013a)



引用文献

- 井下千以子 (2013a) 「思考し表現する力を育むー Writing Across the Curriculum の提案」 関西FD編『思考し表現する学生を育てるライティング指導のヒント』pp.10-31.
- 井下千以子(2013b) 『思考を鍛えるレポート・論文作成法』慶應義塾大学出版会.
- 井下千以子(2008) 『大学における書く力考える力ー認知心理学の知見をもとに』 東信堂.

ありがとうございました。

inoshita@oberin.ac.jp